

第04講 【五行学説 I】 教科書 P.15～18

【五行学説】

：“木・火・土・金・水”5種の物質の特性とその“相生”“相克”などの法則により世界を認識・説明し、世界の法則を探求する一種の世界観・方法論。五行学説の思想は陰陽学説と同じく中医学の各領域を一貫しており、中医学の理論を説明する工具・方法論であり、中医学理論の重要組成部分である。また、中医学では陰陽学説と結合させた陰陽五行学説を用いることも少なくない。

1. 五行学説の基本観点

1) 世界の構成

：世界は“木・火・土・金・水”の5種の属性の物質により構成されている。

2) 世界の本質

：世界の運動変化は“木・火・土・金・水”5種の属性を持つ物質の運動変化による結果である。

2. 五行学説の基本内容

1) 五行の基本特性

① 木 — “木曰曲直”

“曲直”とは樹木や草などの生長を表わす。

生長

昇 発：上へ・外へ向かう運動

条 達：枝や根が外へ向かい伸びるさま

舒 暢：のびやかで心地よい

② 火 — “火曰炎上”

“炎”は炎熱・温熱 “上”は上昇 を表わす。

炎 熱 ; 温 熱 ; 明 亮 ;

昇 騰：(火炎・気体などが)上がること

③ 土 — “土爰稼穡”

“稼穡”とは農事を指す。

受 納：受け入れる

承 載：荷重を受ける

生 化：成長・変化させる

④ 金 - “金曰從革”

“從”は来源、“革”は変革を指す。

変革
 沈降：沈降する、下へ沈む
 清肅：清らかで厳肅

⑤ 水 - “水曰潤下”

“潤下”は水の湿潤と下へ流動する特徴を表わす。

滋潤； 下へ流動するもの； 寒涼

2) 五行への分類：

① 分類原則

：事物の特性や作用を五行の特性を比較し比較の結果、五行中のどの一行に似ているかによって分類する。

② 分類方法

甲. 直接分類法：“①”の原則を用いて分類する。

乙. 間接分類法：すでに分かっているある事物の五行属性に基づいて、その他の関連する事物を五行に分類していく方法。

例：肝は木行に属すると分かっている。
 肝と“胆”は表裏関係にある
 肝は“筋”を主る
 肝は“目”に開竅する
 } これらは全て木行に分類する

【 五行色体表 】

※ 極めて重要です。

	木	火	土	金	水		木	火	土	金	水
五季	春	夏	長夏	秋	冬	五主	筋	血脈	肌肉	皮毛	骨髓
五気	風	暑	湿	燥	寒	五志	怒	喜	思	憂	恐
五色	青	赤	黄	白	黒	五声	呼	笑	歌	哭	呻
五味	酸	苦	甘	辛	鹹	五神	魂	神	意・智	魄・気	精・志
五方	東	南	中央	西	北	五液	涙	汗	涎	涕	唾
五臓	肝	心	脾	肺	腎	五臭	膻・臊	焦	香	腥	腐
五腑	胆	小腸	胃	大腸	膀胱	五華	爪	面色	唇	毛	髮
五官	目	舌	口	鼻	耳・二陰	五音	角	徵	宮	商	羽